

門戸開放、貴族院、樞密院、參謀本部、海軍軍令部等の根本改革、帷幄上奏權の廢止、陸海軍大臣の官文任用、裁判費用の國家負擔、其他外交上に於ては、秘密外交の撤廢、二重外交（重開外交）の廢止、植民政策に於ては、植民地の自治、教育に就いては、義務教育年限を十八歳まで延長すること、義務教育費の國庫負擔、就學兒童の給食其他の生活保障、劃一制の廢止、教育制度の民主化、軍國主義的教育方針の撤廢、高等教育機關の無階級化の主張の如きものである。

次に徹底せる社最政策の實施に就いて云へば、勞働政策に於ては、勞働組合の公認、同盟罷工權の確立、最低賃銀制の設定、八時間勞働制の確立、勞働保險の完備、工場法、鑛業法等の根本改正、職業紹介機關及技能の完備、住宅政策の確立、農業政策に於ては、共同經營組織の促進（産業組合の民主化）、農民組合の公認、耕作權の確立（小作法改正）、農村金融の改善、米價の安定（例へば地主本位ならざる米穀官營）、財政上に於ては、地租、所得稅、相續稅、登記稅、營業稅等の累進課稅及び一定限以下の免稅、消費稅の撤廢、資本課稅及奢侈稅の創設、保護關稅の撤廢、婦人政策に於ては、勞働婦人の母性的保護、婦人の法制的社會的地位の向上、階級政策に於ては、華士族の改革又は廢止、特殊部落の解放等の如きものである。

し、交通運輸を全國統一的に運用すべきを丹張する。また假令それが直ちに直接政府によつて運営されなくとも、即時に國有にし得べき汽船に就いても勿論のことである。此の事業は、私利と地方的利害とに囚はれた資本家の妨害を受けず、全然共同利益の爲めに行はるべきである。そして中央と地方の經營に、漸次組織勞働者を參與せしむべきである」と主張して居る。

獨逸社會民主黨は一九二一年のゲルリッツ綱領に於て「集中されたる産業を共同經濟に轉移せしめ、之れに依つて資本主義經濟を社會主義經濟即ち全體の幸福の爲めに營まれる經濟に轉換せしむることは、社會民主黨が、生産者階級を資本的支配の鐵鎖より解放し、生産物を増加し、人類を一層高度の經濟的及道徳的社會にまで導くために必要な手段として認むるところである。斯くの如き意味に於て獨逸社會民主黨は、ユルフルト綱領に記されたる次の信條を復活せんとするものである。我黨は新しき階級的特權を獲得せんとして戦ふにあらず、寧ろ階級的支配否階級そのものの廢止のため、又門地家系の別なく、總べての人の平等なる權利と義務との爲めに戦はんとするのである。」と述べ更に綱領中に經濟政策なる見出しの下に「土地、地面、地下物並びに自然の生産資源は、之を從來の資本主義的擄取の目的物たることから脱却せしめ、國民共同社會の利用に

以上の諸種の主張は、民主主義的又は自由主義的のものである。無産階級は右の主張のみを以て満足するものではない。我々は現下の社會不安生活不安を以て部分的には所謂政者の失敗に歸しても本質的には資本主義制度其者の中に一切の禍根を見出す。我々は資本主義社會を改造するにあらざれば、到底無産階級の眞の解放を期することは不可能なるを信ずる。故に我々の政治的理想は、資本主義社會の改造に存するのであつて、當面に於て諸種の自由主義的政綱を掲ぐると雖も、其等は皆此の一定の理想より生れ出たものに外ならぬ。此の點が他のブルジョア政黨と異なる特徴である。英國勞働黨が其の社會改造綱領に於て「他の諸政黨の場合はいざ知らず、我等の詳細なる現實政策は、一定の主義より生れて居ること高調しなげばならぬ」と述べて居るのは、無産階級政黨の特色を摘括したものである。英國勞働黨は、同綱領中に、國有即行なる見出しの下に「勞働黨は機會ある毎に、土地公有主義の實行を主張するのみならず、また特に、鐵道、鑛山、電力の國有即行を主張する。英國産業の完全なる組織改造の基礎は、海陸交通を最も簡便にし、動力を最も安價にし、國家の如何なる地方に對しても、電力と石炭とを最も經濟的に供給するに存しなければならぬ。茲に於て勞働黨は躊躇する所なく、鐵道、運河、港灣、道路、郵便、電信等を國有且つ國營と

轉移せしむること。其の範圍の擴張に就いては、或は未だ使用されざる農耕地、或は墾澤なる目的のために浪費せらるゝそのに對して、法律上の査定を加ふること。生産手段の資本主義的收益、特にカルテル及トラストの如き利益團體に關しては、國家の管理を行ふこと。國家、各邦、公共團體による、官僚式ならざる民主的經濟營の下に行はるゝ事業を促進すること。利潤の目的を有せざる組合を獎勵すること。勞働者使用人役人の社會上及經濟上の利益を代表する經濟的委員會制度を設置すること」と述べて居るのは英國勞働黨の主張と同様である。

來るべき我國の無産政黨も資本主義改造を總局の目標とすべきものであるから、其の綱領には、重要産業の國有（組合勞働者の經營參與）、動力の國有、土地の國有（耕地の組合管理、市街は即行、耕地に漸行）等を掲ぐべきものと思はれる。此等の綱領に就いては、尙ほ具體的に詳密なる研究を要する。唯だ注意すべきは、此等の綱領の實現方法があくまで合法的進化的なものである。即ち共產主義的にあらずして、社會民主主義的であることである。

以上述べあるが如く、我國無産政黨は、其の綱領に於て硬成諸政黨と重大なる相異點を有するものであるが、我國現實の國情に照らして考ふれば、反資本主義政黨としても最も穩健なるものたることを要する。然らざれば到底、無